

2021 年度  
発達障害中学生への学習支援  
事業報告書



Learning  
support

学習支援事業

一般社団法人 sukasuka-ippo

すかすか いっぽ

2022.04.14



1. 事業名称 発達障害中学生への学習支援
2. 事業実施期間 2021年4月～2022年3月
3. 参加者数 17名（支援級在籍及び支援が必要な発達障害中学生、他）
4. 内容 市内の支援学校や支援学級に在籍する発達障害がある中学生を中心に学習支援を提供
5. 事業目標
  - ・横須賀市内の中学校の現状確認、学校での課題をヒアリングを実施し、課題のニーズ調査を行う
  - ・障害者団体などの保護者会から課題をヒアリングを実施し、課題のニーズ調査を行う
  - ・支援教育の専門家からの視点での意見を学び、実際の学習支援を研修する



## 6. 事業目標達成状況

- 横須賀市内の中学校の支援級に子供を通わせる保護者、普通級在籍だが学習の支援が必要と感じる子供の保護者、近隣の中学校の支援級の先生へヒアリングを実施、ニーズ調査を行いました。
- 障害者団体の保護者会にも課題調査のアンケートをお願いし、ニーズ調査を行いました。
- ニーズ調査を行うにあたり、支援教育の専門家からどのような点に留意し調査するべきか意見をいただきました。
- 研修として発達障害の子供の学習支援を行う施設を見学し、実際の学習支援を学びました。
- その他、発達障害の専門家の講演会への参加や、中学卒業後の進路についても視野に入れ、近隣の高校の先生からヒアリングを実施したり、通信制の高校にも話を聞きに行くなど、積極的に活動を行いました。

#### ・保護者の主な声

「学校や塾の授業はついていくのが難しいが、ゆっくりなら理解できる」  
「進学を考えたときに選択肢を増やしたい」「放デイの他にも居場所があれば」  
「学校以外に友達ができるといい」「家で勉強をみてあげるのが大変」  
など、学習面を心配する声が多くあがりました。一方で、  
「学校以外での友達ができるといい」の声も多かったのが印象的でした。

#### ・学校側の主な声

「生徒の困り感をつなげる場所がない」「学校外のサポートと連携する必要がある」  
「その子のペースで教えてあげる時間をしっかり確保してあげて」  
「学校の授業のスピードだとどうしても分からない子も多い。ゆっくりなら出来る子もいる」「支援教育をみんなで、が当たり前になってほしい」  
との意見がありました。

発達障害などにより、通常の学級と個別指導を行き来する「通級」や「支援級」に在籍する児童・生徒が増えてきているという現状から、「学習サポートと放課後の居場所」に軸足を置いてスタートしました。

## 7. 事業内容詳細

授業についていくのが難しいと感じる、学習へのサポートが必要な中学生。

市内の学校、保護者に行った聞き取りでの声をもとに、「積み重ねが苦手な子、居場所がないと諦めている子が自信をつけられる場」と、「学習サポートと放課後の居場所」としてスタート。

支援級在籍、または学習への支援が必要な中学1年～3年生を対象にした学習支援事業です。また、放課後等デイサービスを利用している中学生の放課後等デイサービス以外の「居場所」としても利用ができます。コースは下記のふたつです。

### ◇生徒1人ひとりにあわせて学習計画を立てる「定期コース」

生徒1人ひとりに合わせて学習計画をたて、自分にあったペースで進めていけるようサポート。分からないところはさかのぼって丁寧に教えます。テスト対策や受験対策に。放課後コースのように学校の宿題や授業の復習を中心にすることも可能です。

## ◇楽しみながら学ぶ習慣を身につける「放課後コース」 放デイの他に、放課後の居場所としても。

楽しみながら学ぶ習慣を身につけます。放課後等デイサービスとの併用 OK。  
宿題をやったり、お友達と交流したり。「ただいま」と帰ってこれる放課後の居場所です。

### 8. 事業実施によって得られた成果

- 学校での授業についていくのが難しいと感じる生徒、通常級に在籍しているが学習への支援の必要な生徒、支援級に在籍していて、学習への支援の必要な生徒など、さまざまな学びのサポートを必要とする中学生へ、一人一人にあった学習サポートを行いました。助成があったからこそ、じっくり取り組めることができました。
- 普通の塾はハードルが高かったり、放課後等デイサービスでは物足りなかったりと、行き場所のなかった子たちの、「放課後の居場所」として機能でき、受け入れることが出来ました。
- 勉強がメインの子には定期コース、放課後の居場所としての利用がメインの子には放課後コースを用意。時間を分けることで、住み分けが可能になり、大声を出して騒いでしまう子、落ち着きのない子も、勉強に集中したい子も、それぞれがそれぞれのペースで過ごせる環境となりました。
- 中学3年生の生徒が4人いましたが、全員無事に志望校へ合格することができました。
- 支援級の生徒以外にも、通常級在籍ではあるが何らかの発達障害が見受けられる子、発達障害はないが勉強に苦手意識のある子、不登校の子、ハーフで日本語での勉強が難しいからと通う子、養護学校に通う子など、当初の想定を超えて様々な生徒を受け入れています。



▲見通しが立たないと調子を崩してしまう子には基本の絵カード  
おやつを買いに行くなどの買い物学習  
なども一人一人に合わせて行う。



▲授業の様子  
慣れるまでは、マンツーマンで教えるなど  
まずは関係性を築くところから徹底した。



## 9. 成功したこととその要因

「こういう塾を探していたんです」と保護者の方に言っていただけることがとても多い。普通の塾ではハードルが高かったり、放課後等デイサービスでは物足りなかったり、という発達障害を持つ中学生の保護者が抱える悩みにマッチした学習支援だったのが成功した要因だと思われます。

## 10. 失敗したこととその要因

参加者人数は当初の設定目標に若干届きませんでした。(当初 20~25 名目標→実績 17 名利用)  
要因としては2点考えられます。

- ① 多感な時期の発達障害児への配慮として、看板やホームページに「発達障害向け」などと、大きく明記したり、宣伝文句に「発達障害」と積極的に使用しませんでした。発達障害があることを知らない子も多く、また、診断自体もついていない子などへの配慮は必要でした。
- ② チラシを小学校中学校等へ届けても、学校によっては配布してもらえなかったり、時間があいてからやっと配られたりと、必要な人に情報が届かなかったことも要因かと思われます。

対策として、町内会の協力を得て、近隣地区一帯に法人の事業案内チラシ（1,600枚※今回の事業外作成分）を回覧で配布させていただきました。

新年度になり少しずつ問い合わせが増えております。

## 11. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

- ・ 課題 発達障害のある中学生の、市内の主な進学先の高校で、受け入れたはいいが、学び直し等、学習へのサポートが対応しきれていないという現状が大きな課題となっています。
- ・ 対応案 当学習支援から、高校へ進学した生徒とその保護者からも、高校進学後もここで学ばせてほしいとの希望があり、枠を広げ、該当の高校の生徒に限り、高校生でも受け入れることにしました。  
今後は高校の先生とも今まで以上に連携をとって対応に当たります。



12. 事業成果物

・ A4 チラシ 6月版  
200 部

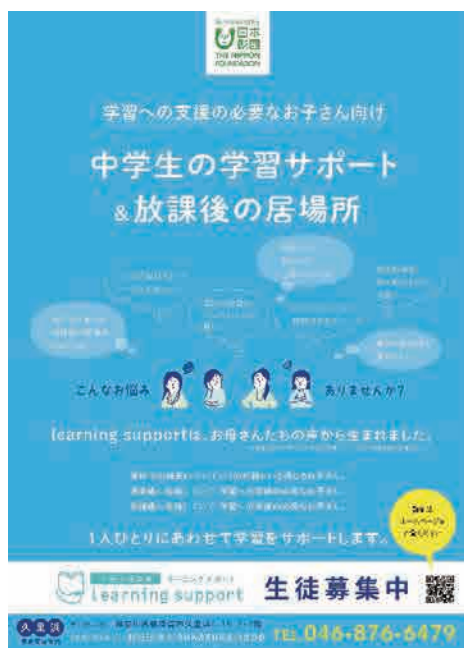


・ A4 チラシ 9月版  
200 部



・ ホームページ作成

<https://learningippo.com/>



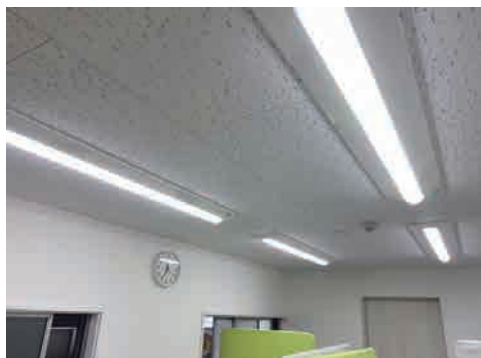
・ A2 ポスター 20 部

・ 成果物を登録したウェブサイトの URL

[http://nippon.zaidan.info/jigyo/2021/0000096309/jigyo\\_info.html](http://nippon.zaidan.info/jigyo/2021/0000096309/jigyo_info.html)



## (購入物品続き)



・ LED 照明



・ 教材…テキスト類



・ 教材…学習玩具類  
放課後コースで主に使用。



・ 教材…iPad  
放課後コースで主に使用。

楽しい時間の共有だけでなく、対人関係のトラブル予防などを目的として、学習玩具や iPad を用いて、遊びのルールや話を聞く過程で、他者との関係性・関わり方を学びます。また動画で世界情勢を学んだりします。